

輝く未来を子どもたちへ

石岡市議会議員

櫻井 茂



この度の市議会議員選挙において、皆様のご支援をいただき、当選させていただきましたことに心から感謝申し上げます。

議員3期目をスタート

総務企画委員会委員長
霞台厚生施設組合議員に就任

石岡市議会議員選挙は定数22名に対して31名が立候補する大激戦となりました。立候補者は、20歳代の若者から80歳代のベテランまで、職業そして訴える政策や選挙手法も様々でした。

特に選挙カー（公費負担されます）は知名度アップに大きな効果があるといわれている中で、選挙カーを出さなかった候補者、選挙カーに看板を乗せずボンネットやドアに候補者名を記載する候補者、看板に照明が無く夜間は誰なのかわからない候補者もありました。

低速で走行する選挙カーがすれ違う際、お互いに「〇〇候補のご健闘をお祈りいたします」等のエール交換をするのが礼儀とされています。昼間、遊説中にとある場所で、（看板が無い）選挙カーと思われる車から「桜井候補の・・・」とアナウンスが聞こえました。しかし私の選挙カーからは候補者名が分からず、車種から想定した「〇〇候補の・・・」と言った後に、名前を間違えていた事に気づき、慌ててお詫びのアナウンスをしたことも。一方、夜の遊説では、突然「桜井候補の・・・」との音声だけが届き、すれ違った車を見ても一体誰なのか???。看板の無い選挙カーが法定速度で走行するようでは、誰なのかわからないため、政策を訴えるよりも名前の連呼（選挙違反です）にならざるを得ないだろうと思いました。（当事者の感じた裏話）

一、臨時議会で議会構成を決定

石岡市議会議員一般選挙が4月23日に実施され、22名の議員が当選しました。

5月16日に改選後初の臨時議会が開催され、正副議長選挙ほか議会構成が決定しました。

(1) 立候補制による正副議長選挙

石岡市議会では、**正副議長選挙に際して立候補制を採用**しており、これは石岡市議会議会基本条例に位置付けしたものです。地方自治法上の規程ではないため、立候補者は、事前に所信を述べる届出書を議会事務局に提出します。所信に対しては質問も許可されるため、議長としての資質と力量が試される事になります。議長選挙に立候補したのは、関口忠男議員と勝村孝行議員の2名です。（石岡市議会ホームページでは議長選を録画で確認できます。）

(2) 議長選挙は同数によりくじで決定

各議員に投票用紙が配布され、議席番号順に投票箱に投票用紙を投函。全議員が見守る中で開票が行われ、関口議員10票、勝村議員10票、小松議員1票、無効1と発表されると議場内にどよめきが起き「くじ」との声も。最多得票者が同数の場合には公職選挙法を準用し「くじ」で当選者を決定します。

当選くじは関口議員が引き当て、第10代石岡市議会議長に就任しました。

(3) 想定得票数と違う票数に戸惑いが

議長立候補者は、各議員に支援の有無を確認し票固めをしていました。開票の結果は、想定と違っており、議場内のどよめきは約束と違う票数への驚きの声とも言えます。

(4) 立候補表明の無い議員への投票

議長選挙に続く副議長選挙では、村上議員のみ所信を述べました。結果は、村上議員12票、山本議員8票、小松議員1票、無効1票でした。これにより、村上議員が副議長に就任しましたが、立候補（所信）表明の無い議員にまともった票が投じられたことは、議会基本条例を形骸化させかねない残念な結果とも言えます。

(5) 委員会等の配属を決定

各議員は常任委員会に所属します。希望する委員会名を事務局に提出し、希望者が定数を上回った際には抽選等を行い、はずれた議員は定数に満たない委員会に配属となります。所属委員会決定後すみやかに、正副委員長を互選します。私が所属した総務企画委員会は、委員長選挙の得票数が同数となり、くじにより委員長を決定しました。幸いにも当たりくじを引いたのは私でした。

議会運営委員会委員長もくじで決定しました。

産業経済 定数7名	文教厚生 定数7名	総務企画 定数8名
★岡野孝雄	★岡野孝男	★櫻井 茂
○川井幸一	○玉造由美	○鈴木康仁
鈴木行雄	村上泰道	菱沼和幸
高野 要	小松豊正	池田正文
関口忠男	勝村孝行	谷田川泰
山本 進	中根淳一	石橋保卓
新田 茜	富田雅史	飯村一夫
★は委員長 ○は副委員長		鈴木将史

外に
広報委員会 ★川井幸一 ○新田 茜
議会運営委員会 ★谷田川泰 ○鈴木康仁

二、上曽トンネル整備事業

上曽トンネル整備事業は石岡市と桜川市が合併特例債を活用し、茨城県に工事を委託した事業です。石岡の負担総額は約85億円ですが、県道の支援と合併特例債の活用により実質負担は約4億2千万と積算されています。

(1) 上曽トンネルが貫通

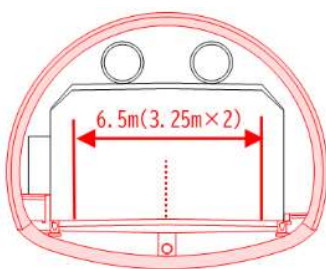
石岡市上曽と桜川市真壁を結ぶ上曽トンネルは令和3年1月に採掘工事を開始しました。

5月9日、石岡工区と桜川工区それぞれが所定の地点に到達し、トンネルが貫通しました。

今後、令和7年度の開通に向けて、覆工や舗装工等のトンネル本体工事、設備工事等が行われていきます。

項 目	延 長	トンネル
全体区間	5,580m	3,538m
石岡工区	2,950m	1,939m
桜川工区	2,630m	1,599m

トンネル断面図



(2) アクセス道路の整備が重要

トンネル工事の竣工を見据えて、石岡市はアクセス道路の整備を進める必要があります。県央において鹿島港と筑西・真岡を結ぶ東西の大動脈となる交通量に対応する道路整備は、恋瀬川の越水対策や大型車が安全かつ円滑に通行できる交通環境の確保が必要です。

三 霞台厚生施設組合

(1) かすみがうら市長が負担金支払いを拒否

宮嶋かすみがうら市長は、霞台厚生施設組合（以下霞台）の旧ゴミ焼却施設解体関係費用である令和4年度負担金の一部（解体設計費用）について支払いを拒否しています。

霞台は、督促状そして催告状を送付していますが、現在も未納が続いています。

(2) これまでの経緯

昭和47年、霞台は石岡市と小美玉市が施設整備を行い、ゴミ処理施設として運営を開始。

平成27年、石岡市・小美玉市・かすみがうら市・茨城町の3市1町で霞台に新たなゴミ焼却施設を建設・運営することで合意。

令和2年、用地取得費等は、かすみがうら市と茨城町から負担を求めない代わりに**旧焼却施設解体費用を3市1町で負担する事を合意**。

令和4年4月、新ゴミ焼却施設が完成し運用を開始。旧焼却施設を令和5年度に解体するための設計委託料の予算化を霞台議会が可決。

令和4年7月、かすみがうら市長選挙で宮嶋市長が誕生。市議時代に霞台への加入と負担割合に反対する質問をしていました。

(3) かすみがうら市の監査委員が勧告

令和4年10月、負担金支払いに関する住民監査請求が、かすみがうら市に提出される。

12月、かすみがうら市の監査委員が、霞台旧施設解体の調査設計業務委託料について、同市分約四百万円の支出命令をしないよう市長に求める勧告を提出しました。勧告内容は、**旧施設の解体に関する経費は石岡、小美玉両市が全て負担すべきと結論付けたものです。**

(4) 議会ルール無視の発言の数々

令和5年2月、令和5年度予算案等を審議する議会が開催されました。

霞台議会開会冒頭に宮嶋（市長）副管理者から、負担金に反対する旨の不規則発言があり議長がこれを制止。その直後、かすみがうら市のS議員（共産党）が会議規則を理解せずに質問通告無しで「質問したい、できるはず」として議会が紛糾。議長権限で最後に討論での発言を許した後、全議案を賛成多数で可決しました。

(5) 合意は民法に定める契約行為

令和2年の合意は、3市1町の首長と職員多数が数度にわたって協議し合意した内容であり、民法における契約行為に当たります。

法令を遵守すべき行政の長として、「坪井市長の約束は関係ない」と公言する宮嶋市長ですが、契約が無効となる公序良俗に反する契約（90条）等に合意が該当するとは思えません。

最近の新聞報道では、「第三者の判断を仰ぎたい」とするコメントが宮嶋市長から出されており、トーンダウンしているようです。

(6) 入浴施設「みらい交流館」が運営開始

白雲荘に代る地域還元施設である入浴施設「みらい交流館」が竣工し、4月から運営を開始しました。

ゴミ焼却熱を活用し発電した電力を有効利用する施設です。施設使用料は大人500円、子ども300円。

休館日は毎週月曜日です。温水プールとトレーニング室も併設されています。



四 市の助成事業

(1) 住宅・店舗等リフォーム支援事業

市民の快適な住環境及び小規模事業者が営む店舗の魅力度や機能性の向上を図るため、市民の皆様が市内の施工業者を利用して、ご自宅や店舗のリフォーム工事を実施した場合に、その費用の一部を補助するものです。外壁・屋根の耐久性を高める工事、内装工事、付帯設備で衛生環境を向上させる工事等が該当します。補助上限額は、住宅10万円、店舗30万円、併用住宅40万円があります。担当は商工観光課です。

(2) 後付け踏み間違い防止装置整備補助金

高齢者の交通事故防止を図るため、現在乗っている自家用車に後付けで「踏み間違い防止装置」を整備する場合に補助金を交付します。対象は、満70歳以上で運転免許証の所有者、車検証に記載されている使用者が本人か同居の家族となります。

補助上限額は、障害物検知機能付き2万5千円、障害物検知機能無し1万5千円となります。



(3) 軽度・中等度難聴児補聴器購入支援事業

身体障害者手帳の聴覚障害の対象とならない軽度・中等度難聴児に対し、補聴器の購入に必要な費用の一部を助成します。

補聴器購入後の申請は対象外となります。助成を受けようとする場合は必ず購入前に社会福祉課にご相談ください。

五. 複合文化施設整備事業

(1) 整備事業の再スタート

ゼロベースでの見直しとなっていた複合文化施設が、議会の始動とともに動き出しました。

5月30日、全員協議会が招集され、市長から複合文化施設整備構想案が示され、審議会で検討を進めることが報告されました。

審議会の構成は学識3名、議会3名、関係団体6名、市民代表6名の計18名ですが、臨時委員を1名追加するとの事です。

今後のスケジュールは、基本構想案を7月中旬に取りまとめ、令和5年度・6年度の早い時期に基本計画案を策定する方向が示され、遅くとも令和12年度までに施設竣工を目指します。

六. 西口交流施設

(1) 事業の進行管理の甘さが露呈

西口交流施設は、駅周辺の交流人口を増やすため、旧茨城トヨペット跡地を借地（年432万円）し、飲食も可能な休憩施設として整備を進めています。軽食等の提供や施設の管理を委託するチャレンジショップ業者の選定を行う中で、厨房設備が食品衛生法の基準を満たしていない事が分かり、追加整備を急遽実施し、さらには管理委託事業者との契約条件が国の補助規定に抵触することもあり、事業者選定を延期し、サイクルステーションのみを3月にオープンしていました。現在、再公募者選定が行われており、7月のオープンを目指しています。



七. タロー像移設問題

(1) 必要のない移設予算案

議会では①石岡駅西口交差点のカーブが危険であり交差点を直線的に改良すべき。②交差点改良の際にはタロー像が邪魔になるので移設すべき。との一般質問がされたことがあります。

令和5年度予算に、タロー像移設関係予算が計上されたことから予算特別委員会で、担当職員に質問すると

①交差点改良の予定は無い。②タロー像が、より多くの人に見てもらえる場所に移動する。

③関係者の同意は得ている。と職員が答弁。

移設の根拠が無く、現在の設置場所が見ても見えない場所でもない。関係者から私に届いた声は「移設反対」の声ばかりでした。

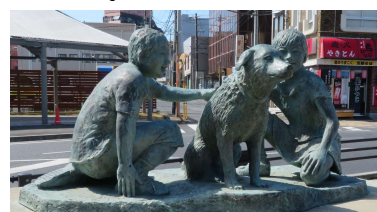
さらに担当職員がタロー像移設という重要な意思決定の決裁文書を作成しておらず、文書管理規則違反まで判明しました。

(2) 市民の声を聞くはずが

市長は私の質問に「関係者に説明をして移設のご理解を得て進めていきたい」と答弁。所信表明の中で「市民の声を聞いていく」と発言しながらも、タロー像は移設を前提に話をするという答弁でしたので、『市民の声に真摯に向き合ってほしい』と要望しました。

5月下旬、市担当者「関係者の声を確認しましたか」と問うと「部長がタロー像代表の方と4月中旬に面会し、反対の意思を確認した。移設の是非は今後決定する見込み」と回答。

厳しい財政状況と公言する中で、必要のない事業になぜ予算を付けたのか不思議です。



八. ハーフマラソン大会開催へ

(1) イベント広場をスタート会場に開催

石岡市ではこれまで10キロを最長距離とする「つくばねマラソン大会」及び山々を駆け抜けるトレイルマラソンを開催してきました。

議会でもフルあるいはハーフマラソン実施への一般質問があり、長年にわたり検討を続けていました。

6月1日に開催された文教厚生委員会において、令和6年2月18日（日曜）、ハーフマラソン大会を開催する事が報告されました。

イベント広場をスタート（ゴール）し、石岡駅から宮部・染谷・常陸風土記の丘・畜産センター・根小屋・下林で折り返すコース設定を予定しています。

櫻井茂のプロフィール

- S34年6月 石岡市に生まれる
 - 石岡一高・東海大学文学部史学科卒業
 - S57年 日本信販(株)(現三菱UFJニコス)
 - S58年 石岡市役所入庁
 - 税務課 - 財政課 - 情報システム課
 - 秘書広聴課 - 議会事務局
 - H27年 市役所議会事務局長で早期退職
 - H27年 学校法人理事長（府中幼稚園）
 - H27年 石岡市議会議員
 - R01年 石岡市議会議員
 - R05年 石岡市議会議員
 - ・ 総務企画委員会委員長
 - ・ 石岡市総合計画審議会委員
 - ・ 石岡市国土強靱化計画委員会委員
 - ・ 石岡市ふるさと再生会議委員
- 霞台厚生施設組合議員